

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	交流教育の指導				
担当者氏名	井上 敏孝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	3年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門応用-2 豊かな人間性の醸成 ○ 専門応用-3 コミュニケーション能力の向上 ○ 専門応用-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

従来から共同学習はインクルーシブ教育の実現に必要な不可欠な教育活動として位置付けられてきた。

本講義では日本における交流教育の実践事例について分析を重ねるとともに、交流教育の実践について深く理解する機会を設定する。また事例研究を通して、指導計画の立案、さらには授業プランの作成及び実践を行う。

《テキスト》

なし。適宜レジュメ・資料を配布する。

《参考図書》

参考文献等はその都度紹介する。

《授業の到達目標》

交流教育のあり方や意義について理解を深めるとともに、交流活動が子供の社会性や豊かな人間性を育成する上で重要な役割を占めていることについて実感的に理解することを目指す。さらには地域・学校・子供の実態を把握し、一人一人の教育的ニーズを踏まえて授業等をデザイン・実施するための実践力向上の機会となることを期する。

《授業時間外学習》

授業内で発表や活動を行う際は、事前に課題を出すことがある。その際は関連する資料等をよく読んで、自身の考えをまとめて授業に臨むこと。また日頃から新聞記事やニュースに目を通し、特別支援教育のあり方や交流教育について関心を持っておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加度・貢献度（30%）、発表内容（20%）、授業終了時のレポート（50%）を加えて総合的に評価する。5回以上欠席した場合は、レポートを受け付けない。

《備考（教員経験の有無）》

随時発問や活動を加えつつ授業を進めていくので、積極的な姿勢での参加が望ましい。この教科は中学校の教員経験に基づき構成しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	本授業の概要と授業の進め方、評価方法等についてガイダンスを行うとともに、交流教育の意義と役割について理解する。
2	我が国における交流教育のあゆみ	日本での特別支援教育の歴史的変遷について概括し、交流教育のあり方について諸外国の事例と比較検討する。
3	教育課程上の交流教育の位置づけ	学習指導要領の分析等を通して、交流教育の位置づけについて理解する。
4	「合理的配慮」と「基礎的環境整備」	学校における「合理的配慮」の観点を理解し、その基礎となる環境整備の必要性について検討する。
5	交流教育の事例研究①	学校間交流における実践事例について考察する。
6	交流教育の事例研究②	居住地校間交流における実践事例について考察する。
7	交流教育の事例研究③	地域社会との交流における実践事例について考察する。
8	交流及び共同学習の実態調査	特別支援学校における実施事例について深く理解する。
9	交流及び共同学習に向けたプロセス	障害の特性に応じた配慮や一人一人の教育的ニーズに合わせた指導や必要な支援のあり方について理解する。
10	行事等における交流学習の展開①	交流及び共同学習に向けたプロセスを把握し、指導計画の立案を行う。
11	行事等における交流学習の展開②	指導計画で立てた活動内容について発表する。
12	教科学習における交流学習の展開①	教科授業を通じた交流学習について検討する。
13	教科学習における交流学習の展開②	教科授業を通じた交流学習について検討・討議する。
14	交流教育の実践	講義内で立てた指導計画等にもとづいて交流活動及び授業実践を行う。
15	まとめ	本授業で学んだことを総括するとともに、レポート課題を発表する。